

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	⑩
<ul style="list-style-type: none"> ● 活動内容 研究発表 ● 講義テーマ Stanford /UTokyo Partnership Program on International/ Cross-Cultural Education and Global Citizenship ● 国名・都市名 日本・東京 ● 発表題目 “Subject Librarians in Japanese University Libraries: Current Status and Future Prospects” ● 発表形式 口頭発表 ● 発表予定年月日 2025年3月18日 ● 発表内容の概要 本研究は、日本の大学図書館におけるサブジェクトライブラリアン (Subject Librarian) の導入に関する調査・分析を行い、その実践と課題を明らかにすることを目的とする。研究の背景として、日本の大学図書館では主題専門性を持つ館員の必要性が指摘されているものの、サブジェクトライブラリアンの導入事例は限られており、体系的な研究も不足している。本発表では、日本におけるサブジェクトライブラリアンの導入に関する研究背景、目的、内容について報告する。 本発表では、サブジェクトライブラリアンの導入に関する課題や今後の方向性について議論し、日本におけるサブジェクトライブラリアンの可能性を探る。 	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

今回の発表では、日本の大学図書館におけるサブジェクトライブラリアンに関する研究を紹介し、研究の背景、目的、研究内容について述べた。

サブジェクトライブラリアン制度は、イギリスやアメリカで早くから発展してきた。一方で、日本では大学図書館員に学習支援や研究支援の専門性が求められるものの、こうした専門知識を持つ人材が不足しているのが現状である。日本では1960年代にサブジェクトライブラリアンの概念が導入され、一部の大学で設置が試みられたが、普及には至らなかった。文部科学省の政策文書を振り返ると、1970年代から大学図書館員に専門的な知識が求められてきたが、現在に至るまで導入事例は少数にとどまっている。次に、先行研究について述べた。本研究では、イギリス、アメリカ、日本のサブジェクトライブラリアンに関する研究を対象とし、英語および日本語の研究を分析した。そして、それらの研究から課題を抽出し、解決策を提案した。研究の目的として、日本の大学図書館におけるサブジェクトライブラリアンの導入に際して考慮すべき基準を探ることを掲げる。また、研究デザインについても紹介した。本研究は三つの段階に分かれており、第一に「既存の事例と研究の分析」、第二に「利用者ニーズの調査」、第三に「導入基準の提案」を行う。

質疑応答では、サブジェクトライブラリアンのインターネット関連の役割、認知度の低さ、日本と他国の違い、導入の現実性、欧米での導入背景などに関する質問や意見が寄せられた。これに対し、日本では導入事例が少なく、制度面での課題があること、また、特定のフレームワークを一律に適用するのではなく、日本の大学図書館の実情に即した形で導入を検討すべきであることなどを回答した。

今回の研修を通じて、日本の大学図書館におけるサブジェクトライブラリアンの導入に関する研究成果を発表し、学術的な議論を深める機会を得た。これらの議論を通じて、日本におけるサブジェクトライブラリアンの導入に関する新たな方向性や視点を獲得することができた。